

噴火湾環境情報 No.1

発行：2025年4月30日
道総研函館水産試験場調査研究部
担当：鈴木，水上，夏池

2025年4月23～24日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・潮流の観測結果およびホタテガイラーバの採集結果をお知らせします。



- ・親潮系水は湾内にほとんど流入しなかったとみられる。
- ・湾外には津軽暖流水がみられた。湾内に時計回りの渦は形成されていない。
- ・ホタテラーバの出現時期は昨年より半月早く、5月上旬には一部が付着サイズとなる見込み。

【水温・塩分の鉛直分布】

噴火湾内の表層はおおむね水温7℃前後、塩分32～33の範囲でした。30m以深では水温5～6℃、塩分はおおむね33以上でした。湾外の70m以浅では水温8℃、塩分33.7以上の高温・高塩分の津軽暖流由来の水も見られました（ST.05）。

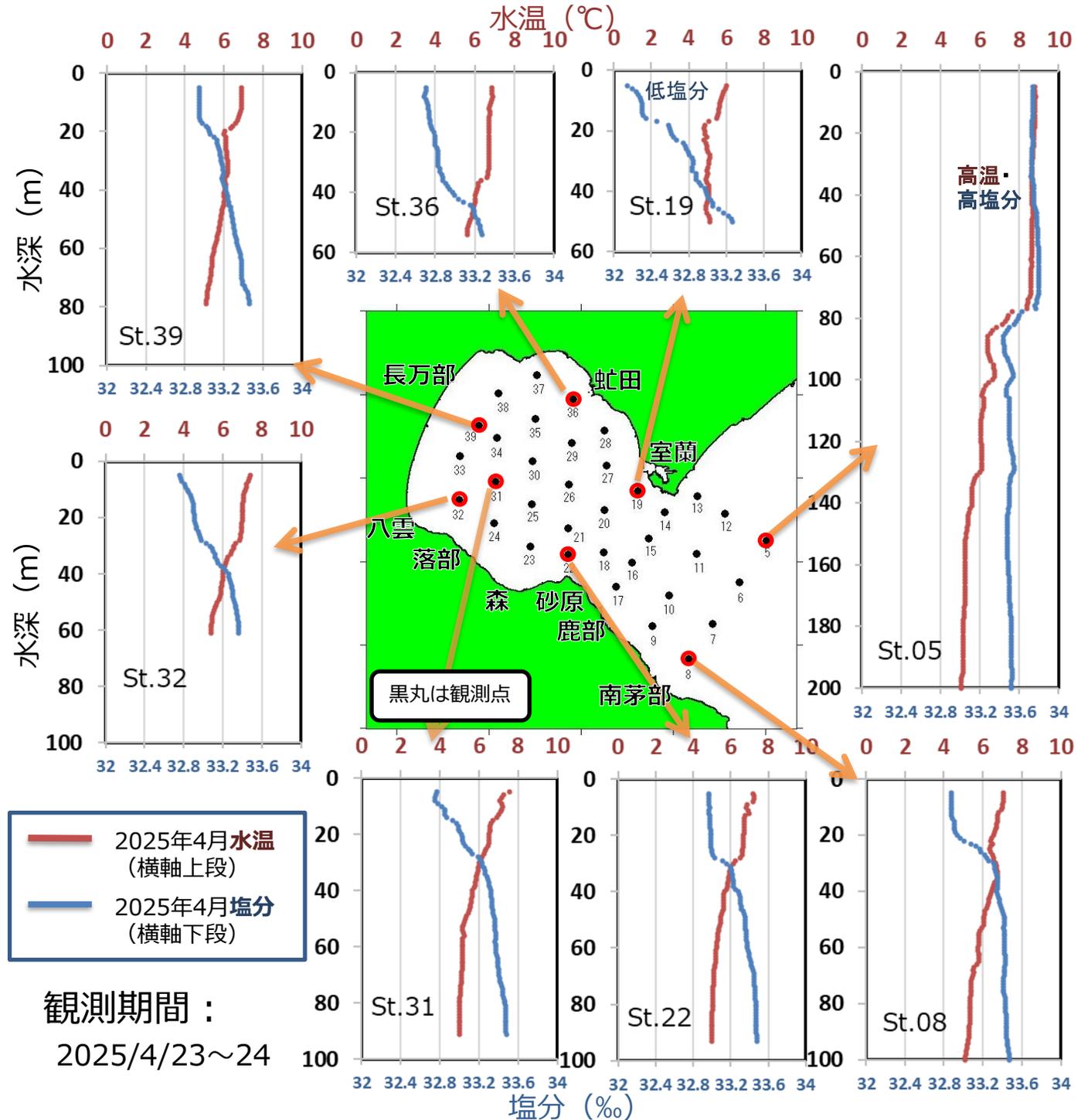


図1 噴火湾各地先の水温・塩分の鉛直分布

【水温，塩分，流向流速の水平分布】

■水温・塩分

2025年の湾内深度20mの水温は6～7℃台（図2A），塩分は32.6～33.2の範囲でした（図2B）。2月から4月にかけて低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）の湾内への流入はほとんど無かったとみられます。

■流向流速

胆振側の湾口部から噴火湾内および渡島側に向かう流れが見られました（図2C）。夏季にかけて湾内表層が低塩・高温化すると噴火湾内に時計回りの渦が形成されますが，2025年は4月時点では形成されていません。

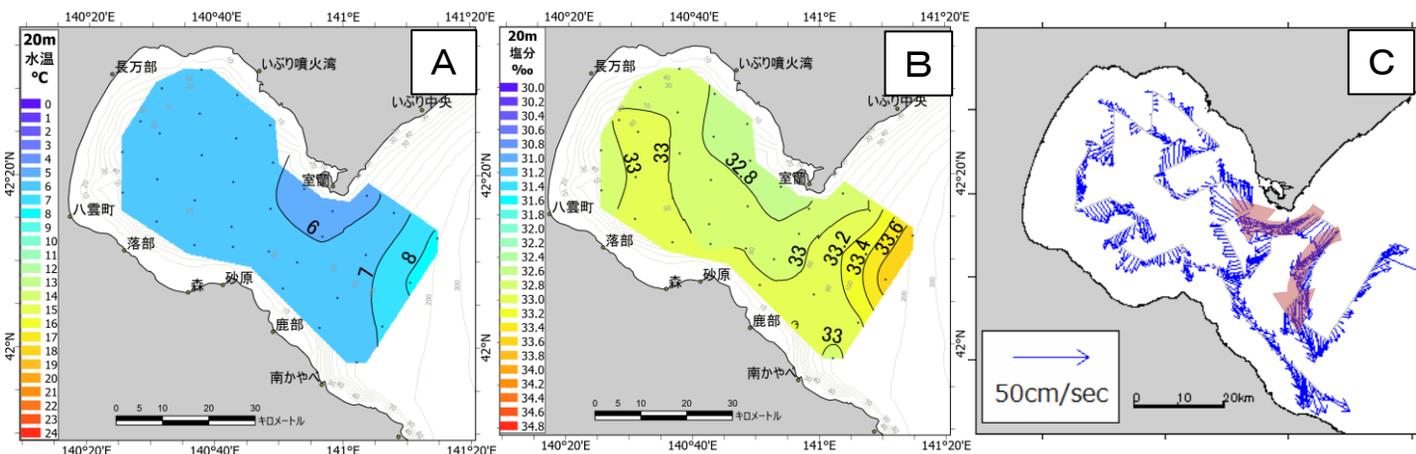


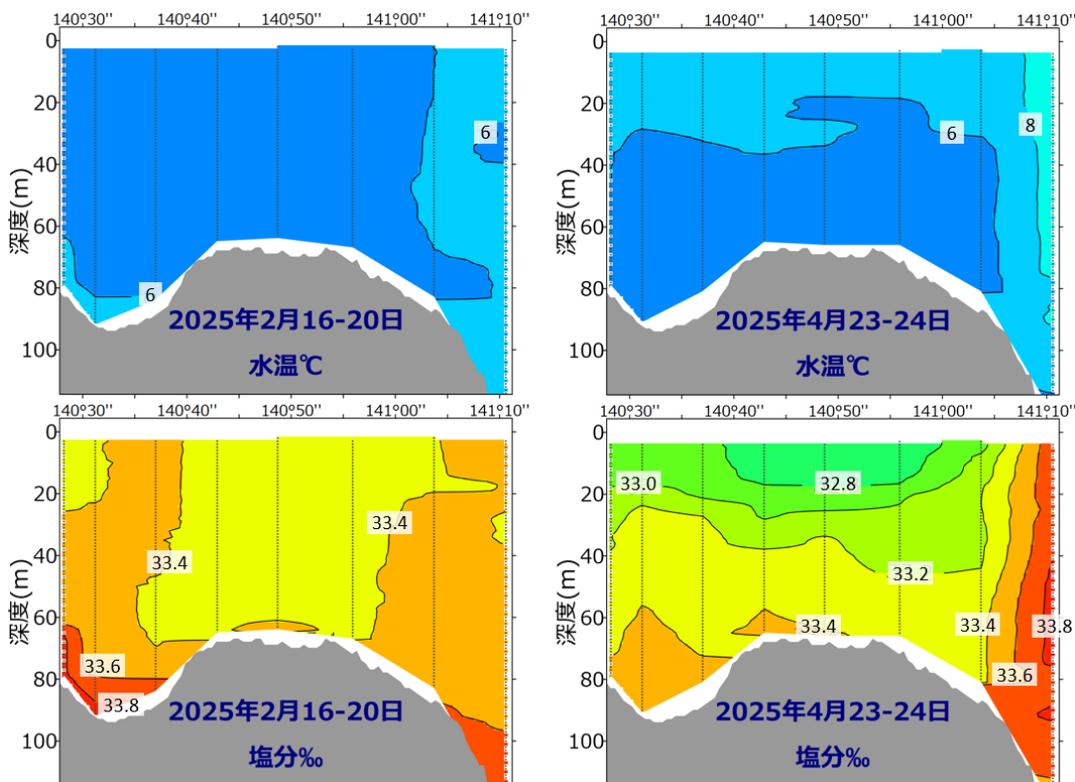
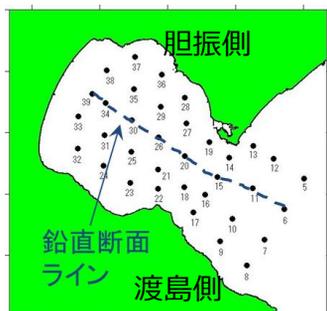
図2 A:水温（深度20m），B:塩分（深度20m），C:流向流速（深度13m）

【水温，塩分の鉛直断面】

2025年4月の湾内における水温は30m以深で5℃台で，2月と比べ海底付近で低下していました。表層付近の塩分は33前後，湾内海底では33.4以上となっています。

図3 上：水温，下：塩分，
左（参考）2025年2月，
右：今回の調査

※鉛直断面は断面ライン
を渡島側から見た図です



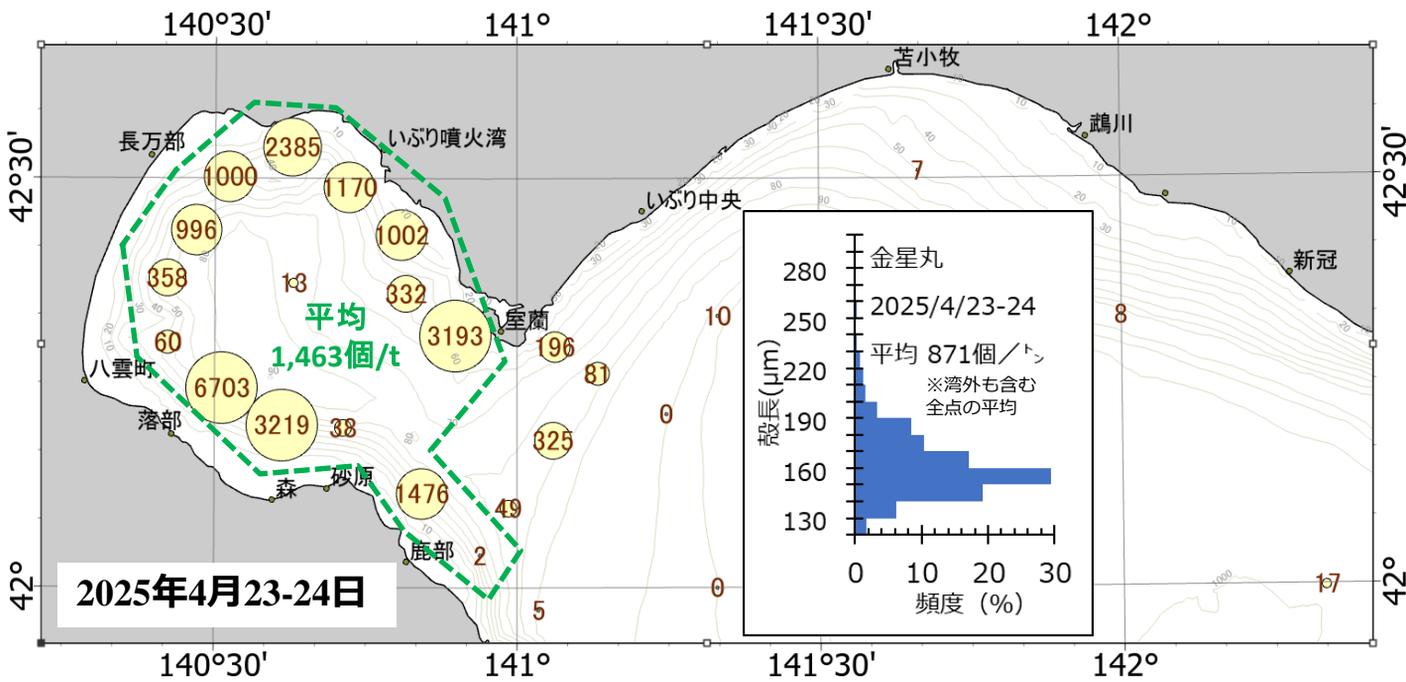
【ホタテガイラーバの水平分布（速報値）】

※調査期間2025/4/23~24

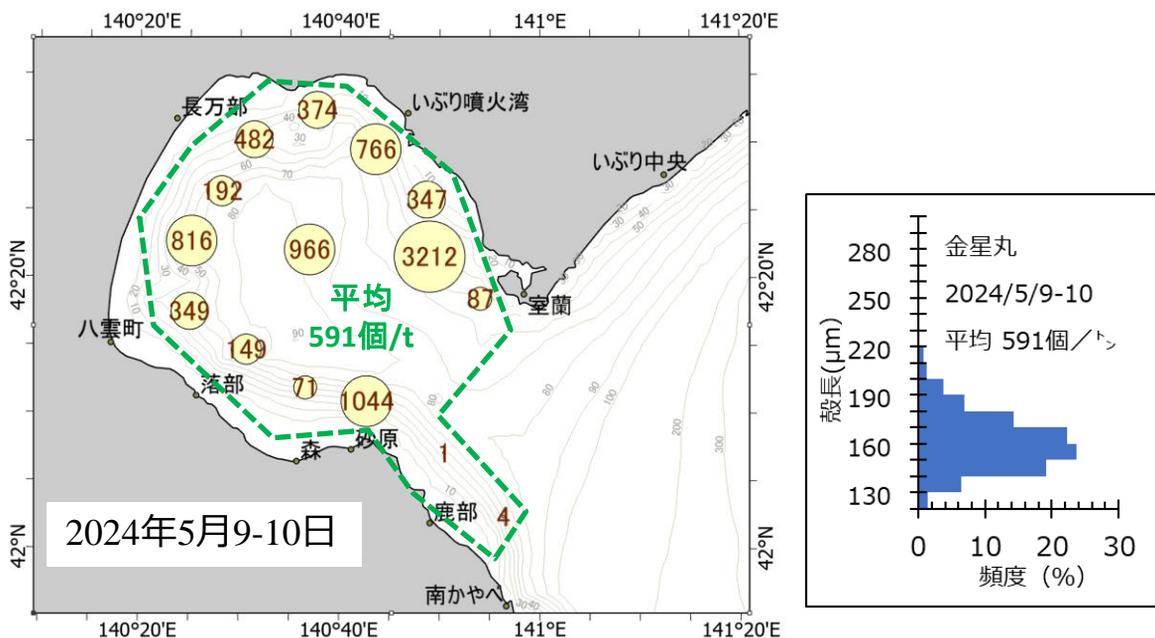
海水1トンあたりの平均出現密度は湾内および渡島側湾口部（**緑点線の範囲**）で**1,463**個でした。殻長は160 μ m台が主体の組成で、一部200 μ mを超えるものも見られました。2024年5月9-10日に実施した調査と同様の組成であったことから、**ラーバの出現時期は昨年と比べ半月程度早い**と考えられます。

160 μ m前後の群の一部は、4月末には200 μ mを超えはじめ、5月上旬には付着サイズ（250 μ m以上）に達する見込みです。

次回は5月8-15日の期間に調査を実施する予定です。



参考図1 ホタテラーバの分布と殻長組成 2025年4月23-24日（※速報値）



参考図2 2024年5月9-10日におけるホタテラーバの分布と殻長組成